

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800824		
法人名	有限会社エム・アンド・エム開発		
事業所名	グループホーム リーベストラウム		
所在地	神戸市垂水区本多間2丁目34-4 (電話) 078-781-1283		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 12人, 非常勤 13人, 常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての 2～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.9歳	最低	74歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯村医院、富森眼科医院、飯村歯科医院、舞子台病院、老人保健施設 舞子台
---------	-------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>・ホームは住宅地の道路沿いに立地しているが、向かい側に木に囲まれた高台の敷地があり、窓からは緑を楽しむことができる。利用者が散歩できる距離に公園や店があり、楽しみの外出ができる環境である。ホームは病院だった建物の2階・3階部分にある。1階が主治医の医院であり、医療面では緊急時にも対応できる。今回の自己評価は職員全員で取り組み、利用者の暮らしへの支援について深く考えられるようになって仕事が楽しくなった。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>・前回の評価結果を家族会や運営推進会議で報告し、見やすい所に掲示している。入り口の階段付近が殺風景であると指摘されたので、花を飾り、大きな縫いぐるみを置いて明るさが増すように改善した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>・今回の自己評価は、職員全員が手分けして取り組み共有したので、評価の意義を理解できた。取り組みを通して、利用者がその人らしく暮らし続けることを支援するという管理者と職員の意識が一つになった感じがある、との発言があった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>・2ヶ月に1回の運営推進会議には、家族、民生委員、自治会役員、高齢者介護支援センター、主治医、歯科医、管理者、職員などが出席。前回の議事録をもとに改善点などの経過を報告し、再度検討を重ねている。また、市の調査や第三者評価の内容も報告し、具体的な改善課題を検討しサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>・家族からの本音の意見が出るように、行事などで来所の折にはゆっくり話ができるよう配慮している。毎月の便りには利用者の暮らしぶりの様子などを載せて、気軽に意見が得られるようにしている。利用者の家族が音楽療法の講師を申し出るなど、家族の協力姿勢が見られる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>事業所は自治会に加入し、管理者は自治会役員を引き受けている。自治会行事には準備段階から関わり、利用者も夏祭りには地域の一員として楽しく参加できた。また、文化祭に出展した利用者の作品が校区の新聞に掲載されるなど、積極的に地域交流に取り組んでいる。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所の理念を「地域の方々との交流を深め、地域に開かれたグループホームを目指す」と具体的な表現とした。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、その実践に向けて、申し送りやミーティング時に「何ができ、何ができないか、何をしなければならないか」などを話し合い、自分自身の考えをレポートとして提出し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所は自治会に加入し、管理者は自治会役員を引き受け、行事の準備段階から関わっている。利用者は、家族の協力を得て、夏祭りなどに地域の一員として楽しく参加した。文化祭に出展した利用者の作品は、校区の新聞に掲載され好評だった。また、小学校の音楽祭にお誘いを受けるなど、積極的に地域交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全員が手分けして自己評価に取り組んだので、評価の意義をよく理解できた。さらに、取り組みを通して日々の介護についてより深く考えられるようになり、利用者のその人らしい暮らしを支援するという意識が一つになった感がある、との発言があった。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回開催。メンバーは家族、民生委員、自治会役員、主治医、歯科医、高齢者介護支援センター、事業所職員など。毎回議事録を作成し、次回にはその後の経過を報告し、サービスの向上に活かしている。さらに、外部評価や市の調査結果などを報告し、具体的な改善課題を検討している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・運営に関する市の調査が3月に実施され指導を受けたので、早急に改善計画を立て実施している。市に対しぜひ現場を見てほしいと申し入れた。市との関係づくりはこれまでは十分とは言い難い。</p>		<p>・運営やサービスの課題解決のためには、市との連携が必要なことがあり、日頃から事業所の実情やサービスの取り組みなどの情報を提供して、関係をつけておくことが望まれる。</p>
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者の日々の暮らしの様子を載せた毎月の便りを、郵送するか直接手渡し報告している。体調変化に関しては、状態や診断結果を家族にこまめに報告し相談している。金銭管理については立替払いで、毎月明細書とともに請求書を送っている。職員の異動も報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族にはその都度思いや意見をじっくり聴くようにしている。利用者の家族が音楽療法の講師を申し出てくださるなど家族の協力は多く、運動会では家族24名の参加があった。</p>		<p>・家族の協力は多いが、どうしても来所できない家族の思いを聞き取る方法を工夫してほしい。また、家族会では家族同士のみで話す時間を作り、家族間交流を促してみること考えられる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の異動は最低必要限度とし、馴染みの関係に影響が出ないように努めている。退職者がボランティアとして参加し、旧交を温めることもある。また、利用者が他のフロアへ遊びや手伝いに行く機会をつくり、担当でない職員とも日頃から交流している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修参加者は受講後レポートを書き、ミーティング時に全員に伝達研修している。内部研修は講師を招き行っている。さらに管理者が、職員の習熟度に合わせて個々に時間外研修を行っている。職員は「利用者一人ひとりについて考える介護を学び、意識が変わって仕事が楽しくなった。」と発言している。		・職員がそれぞれ利用者を特定し、「この方にグループホームとして何ができるか」というテーマでレポートを書き、全員で検討した。一人ひとりをよく見て、その人を知ろうとする姿勢ができた。今後も、管理者と職員が同じ方向を目指す取り組みを続けてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県の連絡会には加入しているが、地域内のグループホームとの交流は行われていない。同業者の地域交流会や実習勉強会などの実現に向けて、地域包括支援センター職員と話し合った。		・地域グループホームのネットワークを構築し、サービス向上のための相互勉強会などを、連携を密にする具体的な取り組みを期待する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前の面接時に、本人と家族から生活の実状や要望などを聴いている。見学の際は、本人が利用者とともにお茶を飲むなど、ホームの雰囲気に馴染んでいただいている。入所開始当初は、家族の協力を得ながら、利用者が安心して生活できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・書や絵の上手な人、料理の得意の人がいる。そして、103歳の人は話題が豊富で、人生について教えてもらうことがある。利用者から学ぶことにより、職員には思いがけない気付きもある。ともに喜び支え合う関係をつくっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・入浴時や夜間のくつろぎの時間に、利用者の思いや意向が出てくることがある。また、思いを表せない利用者については、表情の変化などから推し量り、家族とも相談している。職員は一人ひとりに関心を払い、書きとめ、申し送りしている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・職員全員が一人ずつ利用者の担当を決め、本人の意向を確かめながらホームでの生活状態を再アセスメントした。全員で話し合いを重ね介護計画に反映させている。家族や主治医などの意見も参考にして介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月に1度の見直しであるが、介護計画表に気付いたことや状態の変化を記入し、モニタリングを重ねている。観察と記録を通して、さらに気付いたことや変化が予測されたときは、現状に合うように計画を見直している。</p>		
わ3					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・併設医療機関の連携により、急変時や早期退院に向けた支援を本人、家族の希望により行っている。</p>		<p>・今後は認知症の理解や啓発活動、地域の介護者の相談など、知識や技術のノウハウを還元していくことを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・これまでのかかりつけ医を基本としている。協力医を主治医とする場合は同意を取っている。本人、家族の納得により協力医が定期往診して日常的に状態把握している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・書面にて説明し同意を得ている。主治医の指示を仰ぎ、本人、家族の意向を確認しながら支援している。</p>		
5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・一人ひとりに応答しやすい語りかけを心がけている。個人情報等の取り扱いについては日常的に職員に周知徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個々の希望をペースに合わせて可能な限り支援している。本人の気持ちを必ず聞いて、無理強いはしないよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・リビングのテーブルで下準備や盛り付け、後片付けなど利用者と共に作業している。季節の食材や利用者の好みなどの話題づくりに努め楽しい雰囲気づくりに配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週3回を基本にしている。入浴開始時間は希望に合わせられない場合もあるが、浴室内ではゆっくり過ごしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・今出来ることだけでなく残存機能を維持するため、日常生活で積極的に取り組んでもらっている。個別の楽しみにも出来るだけ応じるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・気候に合わせて、体調の良い日には朝の散歩や日用品等の買物で外出する配慮をしている。希望が出されることは少なく、声をかけて花の水やりやごみ捨てなど、外気に触れる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・フロアによってはエレベーター入り口は施錠されている。		・鍵をかけることが常態化されていないが、また利用者が感じる閉塞感を利用者の立場にたって考えてほしい。職員間での検討を望みたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回日中に夜間想定避難訓練をしている。対策検討会で協議しシュミレーションしている。運営推進会議で地域への協力を働きかけている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・飲食摂取量は把握している。個々の体質や体調、好みや習慣を考慮した支援に努めている。野菜を多く取り入れ、新鮮な食材を使い栄養バランスに配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・一日の大半を過ごす居間は、季節の移り変わりが感じられるように花などを飾り、作品の掲示はしているが適度で控えめな装飾を心がけている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・本人、家族には、入居前に、使い慣れた家具や自作品等好みの物を持ってきてもらうことの重要性を説明している。出来るだけ本人が落ち着いて過ごせる居心地の良い環境になるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。